

「ポスト2025」健康保険組合の提言について

2025年に団塊の世代がすべて75歳以上になりました。高齢化の進展や医療費の急増が見込まれる危機的状況を踏まえ、健康保険組合連合会は「『ポスト2025』健康保険組合の提言」をとりまとめました。この提言では、「**想定される危機的状況**」をもとに、**国民のみなさまへの3つのお願い**、**健保組合の4つの約束**などを示しています。医療保険制度の現状を知っていただき、みなさま一人ひとりのご協力をお願いいたします。

医療費の大幅な増加

2040年には70兆円を超え、その半分は後期高齢者の医療費が占める。

現役世代の過重な負担

給付と負担のアンバランスが拡大する。

医療・介護の提供体制の崩壊

効率化を抜本的に進めなければ、必要なときに必要な医療が受けられなくなる。

健保財政の悪化

解散が相次ぐ事態にもなりかねず、国民皆保険制度の基盤が揺らぐ。

**想定される
危機**

これらの危機的状況を早急に打開し、大きく流れを変えなければ、将来に向けて**国民皆保険制度を維持していくことができなくなる。**

国民のみなさまへの3つのお願い

- 1 医療費のしくみや国民皆保険制度の厳しい状況についてもっと知ってください。
- 2 自分自身で健康を守る意識をもってください。健診をきちんと受けてください。
- 3 軽度な身体の不調は自分で手当てるセルフメディケーションを心がけてください。

健保組合の4つの約束

- 各種健診を受診しやすいよう、こまめに働きかけます。
- 一人ひとりの健康状態に合わせた丁寧な保健指導を実施します。
- 予防・健康づくりに役立つ情報を提供します。
- 職場環境に応じた予防・健康づくりに取り組みます（事業主との連携）。

みなさまに「**3つのお願い**」をするにあたり、健保組合は「**4つの約束**」を掲げて、**国民のみなさまの健康の保持増進を支えていきます。**

事業主のみなさまへのお願い

従業員一人ひとりの健康を守るためにも、健保組合との協力をお願いします。それが、健康経営の推進にもつながります。

「ポスト2025」健康保険組合の提言



全体版



概要版

新年のご挨拶

愛知製鋼健康保険組合

理事長 木村 信彦

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

被保険者ならびにご家族のみなさまにおかれましては、健やかに新年を迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。平素より当健康保険組合の事業運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

厚生労働省の発表によると、令和6年度の概算医療費は前年度比0.7兆円増の48兆円に達し、そのうち75歳以上の高齢者医療費が全体の4割超を占めています。総人口に占める75歳以上の割合は16.8%であり、後期高齢者の医療費負担がいかに大きいかわかります。団塊世代がすでに後期高齢者となった今、健保組合が負担する高齢者医療への拠出金は今後も増加する見込みです。現役世代だけでなく、社会全体で高齢者医療を支える仕組みづくりが不可欠となっています。

こうした状況を踏まえ、健康保険組合連合会は「ポスト2025」新提言をまとめ、国民のみなさまに向けて

- 制度への理解
- 自分の健康を自分で守る意識
- セルフメディケーションの心がけ

という「3つのお願い」を示しました。

一方、健保組合としては

- 健診を受けやすい環境づくり
- 丁寧な保健指導
- 健康づくりに役立つ情報発信
- 職場環境に応じた予防・健康づくりの推進

という「4つの約束」を掲げています。当組合もこれらの提言に沿って事業を進め、現役世代の負担軽減と国民皆保険制度の維持に向けて取り組んでまいります。

昨年12月からは医療DX推進の一環として、従来の健康保険証が廃止され、マイナ保険証を基本とした仕組みに移行しました。マイナ救急やスマホ搭載など、便利で安心な医療が実現しつつありますので、ぜひご活用ください。

さらに、本年4月からは子どもや子育て世帯を社会全体で支える「子ども・子育て支援金制度」がスタートします。少子化対策の推進に向けて、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

わが国の健康寿命は、男性72.57歳、女性75.45歳と世界最高水準ですが、その延伸は健康保険組合の重要な使命です。「性別や年齢にかかわらず、生涯活躍できる社会の実現」を目指し、予防と健康づくりを強化し、生活習慣病の未然防止に努めてまいります。

最後になりましたが、みなさまのますますのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

